



史蹟史料部

2024 年 10 月 17 日

#59

日本人墓地公園 ニュースレター

マレーのハリマオ 谷豊の顕彰碑

今回は日本人墓地公園メモリアルプラザにある「マレーのハリマオ」谷豊の顕彰碑をご紹介します。

谷は1911（明治44）年11月6日、福岡県に生まれました。幼年期に両親とともに英領マレーのクアラ・トレンガヌに移住。谷が兵隊検査のために福岡に帰国中であった1933（昭和8）年、満州事変勃発に怒った華僑暴徒により異母妹の静子が虐殺される事件が発生しました。翌年にこれを聞いた谷は、復讐を誓いトレンガヌに戻りました。生来、血気盛んな谷は、次第にハリマオ（虎）という名で知られるようになり、盗賊団の頭目となりました。一説では3000人の部下がいたそうです。



1940 年頃の谷豊（出典1）

そして彼はマレー人になりきるため、後にイスラム教に入信しました。

1941（昭和 16）年、南部タイのハジャイで英軍に拘束されましたが、日本軍特務工作員・神本利男の助けで出獄。同氏の説得により英軍の広報攪乱実行に同意し、日本軍藤原機関の一員となりました。

マレー人、タイ人部下を率いて開戦直前の諜報・物資調達に従事。開戦直後は、英軍による橋梁爆破を阻止するなどの日本軍進路確保、マレー人の日本軍への協力や英軍に同行するマレー義勇軍の中立化などに力を注ぎました。



谷はその間マラリアを悪化させ、1942（昭和 17）年 2 月 1 日、ジョホールバルの南方第三陸軍病院に入院しました。

しかし回復が見込めず藤原少佐は陥落間もないシンガポールの病院への転院を命じました。そして 3 月 17 日、タントクセン病院で死去しました。

写真左：現在のタントクセン病院（出典 2）

葬儀はイスラム教の教義にのっとり、病院のあるノベナ近くのバジラン・モスクでマレー人によって行われ、その後、当時その近辺にあったイスラム墓地に埋葬されたといわれますが、この墓地は現存せず、正確な墓の位置もわかっていません。

死後、その短い一生を描いた小説・映画などが多数作られ、現在のハリマオ伝説を生むこととなりました。

ハリマオ・谷豊は死後「陸軍通譚」として判任官待遇を受けています。生前の 1942（昭和 17）年 2 月 1 日に遡っての任官でした。

写真右：現在のバジラン・モスク（出典 3）



谷がジョホールバルで入院した病院は、現在のサルタナアミナ病院です。こちらはシンガポール・ウッドランズから陸路をわたり、マレーシア・ジョホールバルの国境から車で 5 分ほどのところにあります。

1941（昭和 16）年にサルタン・イブラヒムによって開かれた総合病院で、数か月後には接收されて南方第三陸軍病院となりました。

出典 1 : <https://ja.wikipedia.org/wiki/%E8%B0%B7%E8%B1%8A>

出典 2 : <https://corp.nhg.com.sg/Pages/Digital%20Version%202022-2023/tan-tock-seng-hospital/index.html>

出典 3 : <https://www.flickr.com/photos/144696332@N07/42247453865/>